

ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ「優先行動を学ぼう！ ～災害リスクを理解する・共有する～」を開催しました (2018/8/25)

テーマ：仙台防災枠組、国連世界防災会議
場 所：エル・パーク仙台

5月に開催された「基礎から学ぶ仙台枠組」に続き、応用編となる「優先行動を学ぼう！～災害リスクを理解する・共有する～」が今年も仙台市と災害科学国際研究所の主催により8月25日に開催され、当研究所の今村文彦所長（災害リスク研究部門）と泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）が出席・講演しました。今年が第3回目の講座シリーズとなります。企業、SBL（仙台市地域防災リーダー）、大学、自治会などから約30名が参加され、「仙台防災枠組」の特に優先行動1の「災害リスクを理解し、共有する」について、現在の取り組みと今後新たに組み組んでいきたい活動を話し合いました。

講座では、2名の市民の方から話題提供をいただき、最初に、311「伝える・備える」次世代塾における学びや活動について、次に、地域の特性を生かした女性リーダー・コーディネーターのご活躍についてお話をいただきました。「次世代塾」における学びで災害リスクを理解した上で、日本全国に、また世界へ発信・伝承することの重要性や、女性の声を反映させた、また視点に基づいた政策づくりが必要であることが指摘されました。このような市民の方々の活動は、今後の「仙台防災枠組」実現に貢献するとともに重要な取り組みとなります。

その後、現在行なっている防災活動、また、今後取り組みたい防災活動について、参加者の方々がグループ討議・発表を行いました。現在行っている活動として、セミナーなどへの参加を通しての「学び」、備蓄に関する町内会とスーパーマーケットとの連携事例、お祭りなどの機会を利用しての防災クイズ、防災行動・避難訓練などが紹介されました。今後の取り組みとしては、外国人や高齢者の方々にどのように防災について伝えるか、50・60年前の経験をいかに共有するか、地域力と高めていく、伝えるチャンスをつくるなど、様々なアイデアが挙げられ、今後の課題となりました。

最後に、西日本豪雨について、今村所長からは豪雨を引き起こしたメカニズムや、避難情報などの共有について報告がありました。泉准教授は、真備町の避難所で配布された「いまから手帳」の紹介や NGO の視点から、対応の課題などについて紹介しました。また、仙台市の総社市への支援状況の報告もありました。

「仙台防災枠組講座」の様子は、今後、来年3月10日開催される「未来フォーラム」においても幅広く発信・共有される予定です。



グループ討議



発表者との質疑応答